

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「子どもの読解力を高める支援」

検査結果の報告後、「音読はできるのに、内容を理解していないことが多いです」と質問を受けることがあります。検査は、子どもが文章を読んで書いて答えるのではなく、検査者が口頭で説明した後、言葉や数字で伝える内容になっています。よって、子どもの読解力を詳しく知ることが難しい状況です。今号では「読解力を高める支援」を紹介します。

1 つまづきの背景

- ・文字を音に変換することや聴覚的な処理に苦手さがある。(平仮名の読みに影響する)
- ・視覚的な情報を細部にわたって正確に捉えることに苦手さがある。(漢字の読みに影響する)
- ・ワーキングメモリ(聴覚的短期記憶)に課題がある。(内容をとどめておけない)
- ・言葉を概念として捉えることに弱さがある。
- ・文脈の中でその言葉のもつ意味を理解することが難しい。
- ・同時に多くの情報を処理できない。
- ・抽象的な言葉や比喩的な表現の理解が難しい。
- ・文章中の必要な情報に着目し、その情報を生活経験に照らし合わせて読むことが難しい。



2 困り感

- (1) 就学前・・・内容を尋ねても答えられない。
- (2) 低学年・・・文章の内容について、一つの要素を問う質問には答えられるが、「どうして」と尋ねると答えられない。
- (3) 高学年・・・文章の内容について、「どうして」と理由を問われると答えられない。

3 有効と思われる支援

- ・読み取った内容を実行させる、絵に描かせる、イメージマップに記入する。
- ・読み聞かせのような形で、あらすじを捉えさせる。
- ・長文が目に入って気が散るので、その段落(または2～3文)だけ、コピーして抜き出す。「だれが?」「何を?」「どうした?」など、内容の細かい要素を順番に質問し、答えられたらほめる。最終的に一文にする。
- ・穴埋め式にし、大事な言葉の字数にぴったりのマスにはまる言葉を見付ける。
- ・ページを読むごとに、場面を把握しているか確かめる。できていない場合、本人にその場面を体験させた上で、場面理解を深める。
- ・絵カードや4コマまんがなどにして、順番に並べ替えたりして、理解を助ける。
例：①4コマまんがを見せてストーリーを話す→②文章カードを読ませる→③4コマまんがに合うように文章カードを並べる
- ・教師のジェスチャーを見て、正しい文を選ぶ。
- ・下敷き等で、子どもが読んでいる文章以外の部分を隠す。
- ・教師が声に出して読み、耳から情報を入れたり、一緒に読んだりする。子どもが読んだ後、続けて教師が正確に読む。
- ・単語や文章をフラッシュカードにしてスピードを速めて読む。(一目読みの力を伸ばす)
- ・国語のテストでは先に設問を読ませて、どんなことが尋ねられているか把握させる。ま

- た、問題の長文の中で該当の設問の箇所を探し、その前後を読ませて答えを考えさせる。
- ・文学作品ではなく、日常生活の取扱説明書等、イメージしやすいものを用いて読ませる。
 - ・保護者宛てのプリント類は、カバンにしまう前に、本人も知っておくようにと話し、読むようにする。
 - ・文章の朗読をしている動画をYouTubeで見せる。
 - ・読みと理解は分けて教える。まずは音読から。子どもが興味のあるもの、文の短いもの、絵などで楽しみながら中身の判断ができるもの、電車等こだわりのあるものを活用して短い音読を練習する。
 - ・文の少ない、本人の好きな絵本の交代読みを楽しく行う。
 - ・簡単なクイズの本（繰り返し、似た問題が出題されるもの）を読ませて、答えさせる。
 - ・最初に教師が読んで、その後、5W1Hに基づいて質問する。内容をつかんだ上で、本人に読ませ、抵抗なく取り組ませる。
 - ・理解させたいときは、読んであげる。本人は問題に答えるだけ。
 - ・文章を動作化させる。
 - ・絵を見せたり、範読したりして内容理解を助ける。
 - ・言葉の意味を伝える。自分で調べる。イメージできるようにする。調べたり、考えたりしても分からない場合は、丁寧に解説する。
 - ・理解困難になっている原因を探って取り除く。漢字なら振り仮名をふる。単語や言葉の句切りに／を入れる。
 - ・あらかじめワークシートを完成させることで、内容把握をさせていく。
 - ・あらすじや見どころを前もって知らせて、理解を助ける。
 - ・絵カードやBGMを使い、想像の世界を広げる。
 - ・当該学年より下学年の本を読書の時間に声に出して読む。その直後に、主人公や登場人物、また大まかにどんな内容だったかを口頭で言わせ、よくできたらほめ、さらにレベルを上げていく。
 - ・プリントを作るとき、文字の大きさや行の間隔に気を付ける。
 - ・音読だと意味が分からなくなるときは、黙読にする。
 - ・黙読でも意味が分からない場合は、他の人が読んで聞かせ、意味を理解できたら、再び黙読させてみる。
 - ・読むときに行を飛ばさないように、列の上に番号をふったり、文節で区切ったラインを引いたりする。
 - ・短い読み物から始める。または、読み聞かせを聞くことから取りかかってみる。
 - ・「今のお話はどこがおもしろかった?」「クマさんは何をしていたの?」などと質問する。
 - ・読めても内容が理解できない場合は、書くことで少しずつ頭に入るよう、ノートに文章を視写させる。
 - ・長文読解は、段落ごとに分けて、文章の内容の情報を子ども一人一人が図示化する作業をする。
 - ・重要なポイントに線を引き、キーワードを書き出して内容を整理し、それを実生活と照らし合わせながら推理したり、解釈したりする練習をする。
 - ・指示文に従って料理や工作をする。



とれたて直送便



「参考に使っています！」

ある小学校で個別の配慮が必要な子どもについての情報交換後に、担任の先生が、通信「特別支援教育の扉」～元気いっぱい・笑顔いっぱい～を綴っているファイルを取り出し、「指導で悩んだときに、通信を見て参考にしています」と話してくれました。今後も最新の情報をお届けします。取り上げてほしい内容があれば、気軽にメールや電話をください！